

洛書

過去から繋がる現在、そして未来へ：
宇宙も自分も

長瀧 重博



我々地球を取り巻くこの大宇宙は、かつて高温の火の玉のような状態にあり、全ての素粒子がほぼ一様に混ざり合うスープのような存在であったと考えられています。しかしやがて宇宙誕生時に産まれたと考えられるスープの中のわずかな揺らぎが、自身の持つ重力により収縮を始め、最初の星、最初の銀河が形成されます。以降、この大宇宙には様々な天体が生まれ、そして死を迎え、それは今なお続いています。我々の地球や、母なる太陽、そして太陽系の仲間たちも、宇宙を構成する天体のひとつとして存在しているのです。この大宇宙そのものの歴史が神秘であり、そして大宇宙を構成する様々な天体現象は謎に満ち溢れています。しかしながらそれを神秘とせず、人智を超えた謎とせず、人類の叡智を以ってこれの理解にあたる学問を宇宙物理学と呼びます。そして、私はひとりの理論宇宙物理学者です。

遙かなる大宇宙に興味を持ち、私は大学院で宇宙物理学を専攻しました。この謎を少しでも深く理解したいと、机に向かって勉強する毎日でした。大学と大学の傍に借りたアパートを毎日往復し、勉強を続けました。読むべき本は無限のようにあり、宇宙の謎の解明は更にその先にあると知りながらも、自分の知識が増えていくこと、理解出来ることが増えていくことを実感するのは楽しいものでした。大学院では勉強(インプット)だけでなく、研究(アウトプット)へ繋げるトレーニングも行いました。指導教官や同じ研究室の皆さんからのアドバイスを受けながら、やはり毎日大学とアパートを往復し、大学にある自分のパソコンに向かい、コンピューターのプログラミングを行いました。学んだ知識をベースにじっくり自分のパソコンに向かって価値を創り上げる、いわゆる“メーカー”とも言うべき作業だったように思います。

この大学とアパートの往復、そして大学で毎日少しずつ何かを学ぼうとすること、何かを産みだそうとする作業は、今も続いています。大学院時代から

現在に至るまで、その営みは連続的に繋がっている筈のものなのです。しかし今の私の研究の様子は、大学院時代とは随分違って来ています。昨今は研究の打ち合わせに於けるメールのウエイトが高まりました。海外の共同研究者はもちろん、日本人共同研究者もその殆どは京都ではなく、日本各地や世界に拠点を持っておられるからです。メールで足りない時にはインターネット(スカイプ)やTV会議システムを使うこともあります。これら世界中に散らばる共同研究者が、それぞれ独自のスキルを持っており、それらを組み合わせることで時に大きな価値を産み出すことがあります。優れた組み合わせ(コラボレーション)を発案し、提案し、実現していく作業は、“商社マン”に近い仕事と言えるかもしれません。

これら得られた研究成果は論文として公表されるだけでなく、国際会議等で宣伝されていきます。こういった会議にて、世界各地にいる共同研究者達と顔を合わせ、各人の発表ぶり(それは研究者にとっては晴れ舞台です)を、感慨と共に聞きます。ほんの数年前には知らなかった海外の共同研究者の発表を、ある意味ハラハラしながら聞いている自分に驚きを感じたりしています。国際会議ではもちろん共同研究者のみならず、新たに知人が出来ること、そしてそれが将来何かに繋がるかもしれないことへの期待もあります。最近私自身が国際会議を開催し、皆さんの晴れ舞台を用意することにも取り組んでいます。そういった類の仕事は“演出家”の仕事に近いのかもしれません。

大学院に入った当時、自分の研究者像は明らかに“メーカー”に近いものがあり、決して自分が“商社マン”や“演出家”に近い仕事をするイメージはありませんでした。このような自分の予想に反した、わくわくするような展開が現れたことは、自分の人生にとって嬉しい誤算でした。そして今後も、きっと今の自分が想像していないような類の仕事のあり方が、自分の前に現れるという予感があります。もちろん全ての基本は自分を含めた共同研究者個々の“メーカー”としてのスキルにあるので、そこを疎かにするようでは全てが根底から崩れてしまうことでしょう。これからも毎日毎日、大学とアパートを往復しながら足元を固めて、今後の展開と、それがもたらす宇宙の更なる理解に期待しています。

(ながたき しげひろ 基礎物理学研究所准教授、専門は宇宙物理学)